

## 親鳥の奮闘

平松 敏郎

2016（平成28）年6月に入会させて頂き、その年の巣箱作りに参加いたしました。熊谷前支部長のご指導でシジュウカラ仕様の巣箱は完成し、ご了解を得て2個持ち帰りました。少し欲張った感じですが、仕事場の入り口の木と、自宅の庭の木に掛けるためでした。仕事場と言ってもまさに門前雀羅の状態ですから、巣箱を掛けるには相応しいとやや自虐的な気持ちでした。

庭にはハナミズキが植えてありましたが、幹がやや細いので足場を組んで取り付けました。家主としては、東南向き戸建ての良い物件だと思っていたのですが一向に野鳥は訪れず、いささか諦め気分でした。2020年の確か5月ころ、たまたま庭に出ていたところ、なんとシジュウカラが営巣していることに気づきました。ようやく入居して下さったととても嬉しくなり、それからは毎日のように様子を見ておりました。しかし素人の悲しさで、孵化する時期も分からずにいましたが、親鳥が実に頻繁に、交互にえさを運び出しましたので、卵が孵ったと思われました。この時期の親鳥の働きはまさに涙ぐましいものがあり、偉いものだと思います。

その後もう一度営巣し、6月の末に幼鳥が飛びたった時は、我が家の庭や近所の屋根、テレビアンテナなど、そこかしこに可愛らしいシジュウカラの幼鳥が止まっていて、大変豪勢な景色を楽しむことができ、我が家出身の鳥たちが来年も来てくれることを期待しました。

こうして2021年の時期を迎え、そろそろ来るのではないかと待ち構えていたところ、確かにシジュウカラが巣に立ち寄ったものですから、今年も営巣するのであろうと大いに期待しました。ところがちょうどそのころ、夜に強い風が吹き、なんとこの巣箱を大破させてしまったのです。屋根は吹き飛び、中の巣材も飛び出して、とても住める状態ではなくなりました。掛けた後何の点検もしておらず、家主としては誠に迂闊なことでした。

そこで、仕事場の入り口の巣箱を外して庭に掛けることにしたのですが、驚いたことにその巣には何者かが営巣した跡がありました。

以前スズメが出入りしたのを見たことがありましたので、一時使用したのかもしれませんが。

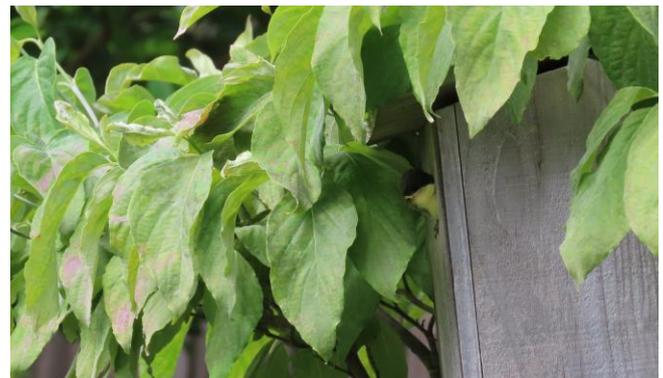
こうして大慌てで庭の巣箱を掛け替えて復旧し、その後確かに一度シジュウカラが様子を見に来たものの、結局営巣に至りませんでした。素人のため原因は分かりませんが、何か不審なものを感じたのかもしれませんが。

それにしましても、シジュウカラに限らず、本能とはいえヒナを育てる親鳥の献身ぶりを見ますと、時折人間界で発生する乳幼児の虐待事件などはとても理解できず正視に堪えません。また、仕事柄未成年者が起こした犯罪事件の弁護活動をしますが（少年付添人活動といいます）、幼時には誰もが皆あれほど可愛かったのにどうしてこうなったのかと感慨深いものがあります。ただ、話をしている見どころのある少年も多く、実際に多くの少年たちはその後の手当てが適切であれば十分立ち直ることが出来ますので、そこには救いがあると思います。当然のことながら、人間界は野鳥の世界よりいささか複雑なのでしょう。

2022年の営巣を今から楽しみにしておりますが、果たしてどうなることでしょうか。



巣箱の中の糞を出す親鳥



外の様子をうかがうヒナ鳥